

9月20日以降に開始された新型コロナワクチン秋接種

絶対に受けてはダメ！

2023年8月27日作成(11月26日改訂)
ほんべつ循環器内科クリニック
院長 藤沢明徳

9月20日から全国で生後6カ月以上の全年齢を対象に、XBB株対応1価mRNAワクチン接種事業が開始されています。

- ◆ すでにコロナ感染の主流は、XBB株から次の変異株EG.5系統に移行
 - ◆ マウスでのみの臨床試験、世界でヒトへの集団投与は日本が初めて
 - ◆ 世界ではアメリカ以外に、このワクチンを接種する予定の国はない
 - ◆ XBB株対応1価mRNAワクチンを接種しても、XBB株の抗体はほとんど上昇せず、3年前の武漢株の抗体ばかりが上昇することが証明されている → 抗原原罪
- ➡ 日本が、効果も見込めない型落ちのmRNAワクチン（遺伝子製剤）の人体実験場になることを意味しています。

mRNAワクチンを打てば打つほど感染拡大を繰り返し、
一向に終息しないという現実😞

世界はワクチン接種をやめ、コロナ感染の波は見られなくなっています

コロナワクチン（mRNAワクチン）についての知見

2022年7月現在で分かっていること

- ① 2年半前の武漢株対応ワクチンなので、現在のオミクロン株には無効。むしろマイナス効果しかない。
→ 打てば打つほど感染します！
- ② 重症化予防効果は最初の1～2ヶ月だけ。その後はマイナス効果。
→ 打てば打つほど死亡します！
- ③ 正常な免疫の学習、整調を妨害します。
→ 打てば打つほど免疫力低下！
自然界の中で生きていけない身体になります！

2価ワクチン（オミクロン対応ワクチン）についての知見

2023年3月現在で分かっていること

- ① 「抗原原罪」のため武漢株抗体ばかりが作られ、感染予防効果は期待できません。免疫抑制を起こすIgG4も大量に産生。
→ 打てば打つほど感染します！
※「抗原原罪」とは、免疫系が最初に出会った抗原の印象が記憶され、変異した抗原に対しても古い抗体を作ってしまう現象
- ② mRNAワクチンの頻回接種で免疫機能はボロボロに。
→ 打てば打つほど死亡します！
ターボ癌の発生も増加します！
- ③ スパイクタンパクを作る細胞が自分の免疫で攻撃されます。
→ 打てば打つほど自己免疫疾患や不妊症の発生率上昇！

**こんな毒物を“ワクチン”と称して接種する事業は即時中止！
子ども達にまで接種を勧めることなど言語道断です❌**

《mRNA脂質ナノ粒子製剤のヒト毒性について～最新の知見～》

- ① **脂質ナノ粒子（LNP）**に免疫賦活作用（アジュバント活性）があり、**体内で強い炎症を誘導し細胞破壊**を引き起こす。また自己抗体を誘導する可能性
- ② mRNAによって産生される**スパイクタンパク**は強い**毒性**があり、血管内皮障害、血栓傾向を誘導し**血栓症**の原因になる。また**ミトコンドリアの機能障害**を引き起こす。
- ③ スパイクタンパクはエストロゲン受容体 α と結合し、**乳癌、卵巣癌、子宮癌、膵臓癌、肺癌、急性骨髄性白血病の癌細胞を活性化**する。
- ④ mRNAによって**スパイクタンパク**を発現した細胞は**自己の免疫から攻撃（抗体依存性自己攻撃）**を受け、様々な自己免疫疾患や細胞障害、臓器障害を引き起こす。
- ⑤ **修飾ウリジン置換mRNA**は免疫寛容を誘導する。またワクチン頻回接種はIgGのサブクラスである**IgG4**ばかりを大量に産生。**IgG4**は免疫抑制を引き起こし、結果として**免疫低下が進行**する。

これまでにコロナワクチン後遺症の治療を受けた方、 コロナワクチン後遺症かもと感じる方へ

当院ではコロナワクチン接種後の長引く体調不良（ワクチン後遺症）に対する治療を行っています。ワクチン接種直後だけでなく、半年、1年以上経ってから発症するケースがあることも分かってきました。またコロナ感染を契機に発症することもあります。

「コロナ後遺症」と報道されている症例のほとんどはワクチン後遺症であることも解明されています。

これまでにワクチン後遺症として治療を受けた方は、法律に従って「**予防接種後健康被害救済制度**」の申請を行うことをお勧めします。認定されると医療費の補助を受けることができます。



コロナワクチン後遺症は史上最悪・最大の『**薬害事件**』です。

当院では新型コロナワクチンの副反応情報を「独立行政法人 医薬品医療機器総合機構（PMDA）」へ報告しています。医師には報告義務があります。患者自身やその家族が報告することもできます。これまでにワクチン後遺症治療を受けられた方、ワクチン後遺症かもと感じる方は、**ワクチン接種証明書**を持参のうえご相談ください。

PMDA（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構）に報告する 



予防接種健康被害救済制度の最新審査状況

- ・月に300～400件前後が新規に申請
- ・たった1つのワクチンが過去45年間の日本国内全てのワクチン被害認定件数、死亡者数を超えました。

新型コロナワクチン接種後健康被害救済申請と審査状況

進達申請受理 **9,464**件（令和5年11月24日現在）



厚生労働省疾病・障害認定審査会 感染症・予防接種審査分科会新型コロナウイルス感染症予防接種健康被害審査 審議結果より作成
※死因問わず、死亡一時金・葬祭料請求に対する認定件数

@Yukari Horiuchi (Kamijima)

新型コロナワクチン接種後健康被害救済申請における

死亡一時金・葬祭料請求に関する審査状況

進達申請受理 **1,040**件（令和5年11月24日現在）



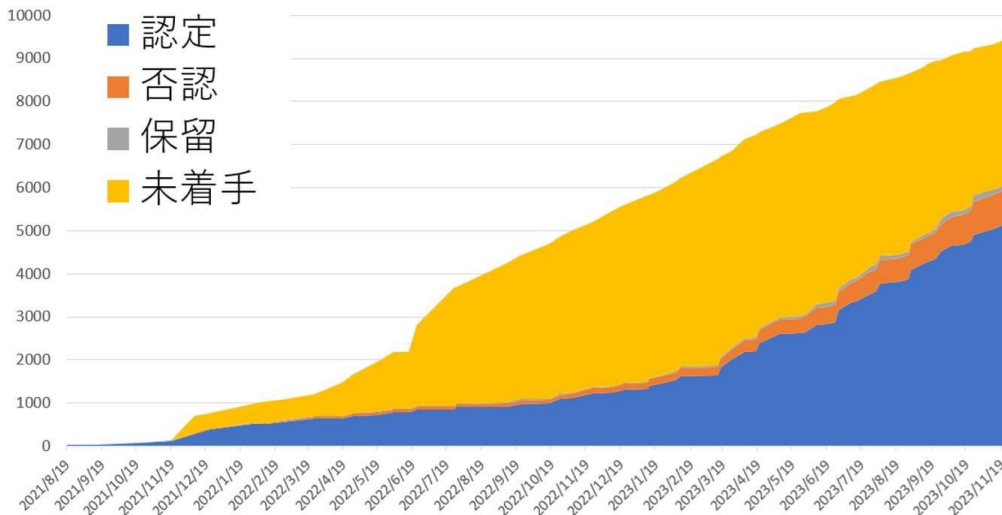
厚生労働省疾病・障害認定審査会 感染症・予防接種審査分科会新型コロナウイルス感染症予防接種健康被害審査 審議結果より作成
※死因問わず、死亡一時金・葬祭料請求に対する認定件数

作成者：博士（臨床薬学 堀内有加里）

@Yukari Horiuchi (Kamijima)

新型コロナワクチン接種後健康被害救済審査状況推移

申請受理 9,464件 (令和5年11月24日現在)



厚生労働省疾病・障害認定審査会 感染症・予防接種審査分科会新型コロナウイルス感染症予防接種健康被害審査会 審議結果より作成

@Yukari Horiuchi (Kamijima)



予防接種健康被害救済制度

※新型コロナワクチンを除く

これまでの全てのワクチン

(期間：1977年2月～2021年12月)

新型コロナワクチン

(期間：2021年2月～)

死亡認定数

151件

377件

2023年11月24日公表分

※新型コロナワクチン「死亡」申請

2023年11月24日公表分

1,040件

うち審査未了

614件



予防接種健康被害救済制度

※新型コロナワクチンを除く

これまでの全てのワクチン

(期間：1977年2月～2021年12月)

新型コロナワクチン

(期間：2021年2月～)

3,522件認定

5,172件認定

2023年11月24日公表分

データ元：厚生労働省

さらに①

審査未了は 3,466件 (うち約 87% が認定か?)

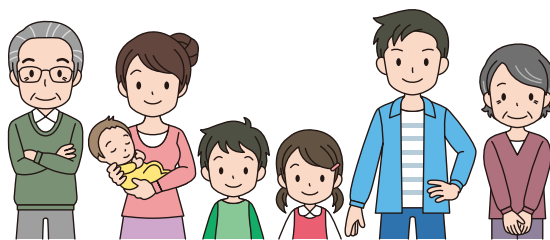
さらに②

申請件数は、今なお毎月 300～400件程度増えている。

予防接種後健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。

極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。



**予防接種(定期接種、臨時接種)による健康被害が生じた場合には、
予防接種法に基づく救済が受けられます。**

予防接種を受けたときに住民票を登録していた市町村にご相談ください。

給付の種類

医療機関で医療を受けた場合 医療に要した費用(自己負担分)と医療を受けるために要した諸費用が支給されます(※1)。	医療費及び医療手当
障害が残ってしまった場合	障害児養育年金または障害年金 (18歳未満) (18歳以上)
亡くなられた場合	葬祭料、死亡一時金(※2)

高齢者のインフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチンの請求には請求期限があります。

(※1) 高齢者のインフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチンの場合は入院相当の場合に限ります。

(※2) 高齢者のインフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチンの場合は遺族一時金または遺族年金が支給されます。

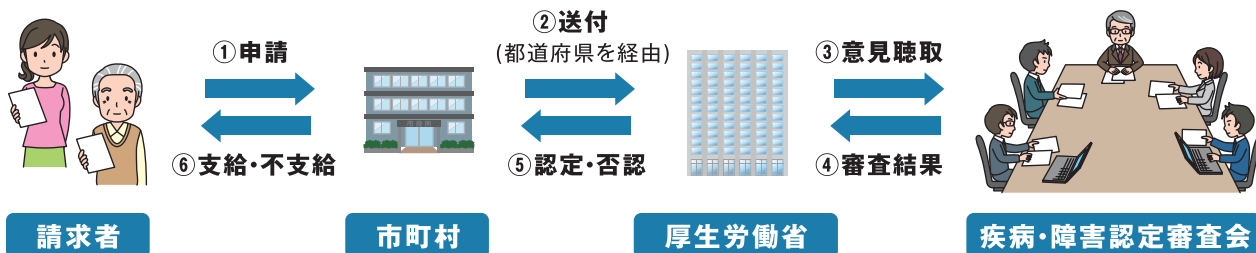
予防接種の副反応について

副反応には、ワクチンを接種した後に起こる発熱、接種部位の発赤・腫脹(はれ)などの比較的良好に見られる軽い副反応や、極めてまれに起こる脳炎や神経障害などの健康被害と考えられる副反応があります。

しかし、そのワクチンを接種した後に起こった症状は、ワクチンの接種が原因ではなく、偶然、ワクチンの接種と同時期にかかった感染症などが原因であることがあります。

予防接種健康被害救済制度ではワクチンの接種による健康被害であったかどうかを個別に審査し、ワクチンの接種による健康被害と認められた場合に給付をします。

給付の流れ



(※) 救済給付の決定に不服がある時は、都道府県知事に対し、審査請求をすることができます。

給付の決定

ご提出いただいた資料をもとに、市町村、厚生労働省が必要書類などの確認をします。その資料に基づいて、予防接種・感染症・法律などの外部の専門家により構成される疾病・障害認定審査会で、因果関係を判断する審査が行われます。

審査の結果を受け、予防接種を受けたときに住民票を登録していた市町村から支給できるかどうかをお知らせします。

請求方法と必要書類

健康被害救済給付の請求は、健康被害を受けたご本人やそのご家族の方が、予防接種を受けたときに住民票を登録していた市町村に行います。

請求には、予防接種を受ける前後のカルテなど、必要となる書類があります。必要な書類の種類は、申請内容や状況によって変わりますので、市町村にご相談ください。

請求に必要な書類	医療費 医療手当	障害児 養育年金	障害年金	死亡一時金 遺族年金 遺族一時金	葬祭料
請求書	●	●	●	●	●
受診証明書	●				
領収書等	●				
診断書		●	●		
死亡診断書、死体検案書等				●	●
埋葬許可証等					●
接種済証、母子健康手帳等	●	●	●	●	●
診療録等	●	●	●	●	●
住民票		●		●	
戸籍謄本、保険証等		●		●	●

(※) 請求に必要な書類の様式は、厚生労働省のホームページからダウンロードできます。

予防接種後健康被害救済制度の詳しい情報については、厚生労働省のホームページをご覧ください。

予防接種 救済

検索



ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

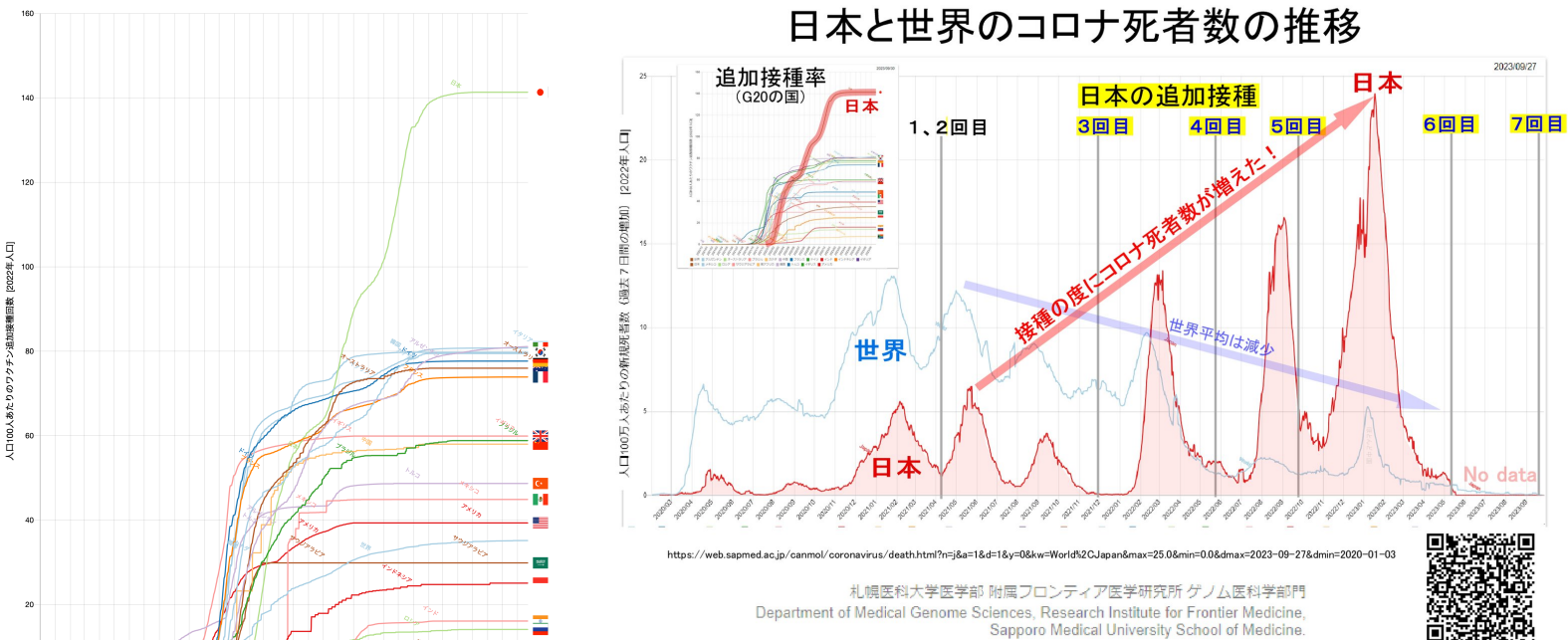
健康被害救済制度の考え方

- 法に基づく予防接種は社会防衛上行われる重要な予防的措置であり、極めて稀ではあるが不可避的に健康被害が起こりうるという特性があるにも関わらずあえて実施しなければならないということに鑑み、健康被害を受けた者に対して特別な配慮をするために設けられた制度である。
- 本制度による給付を受けるためには、疾病・障害認定審査会の審査を経る必要がある。同分科会においては、申請資料に基づき、個々の事例ごとに
 - 症状の発生が医学的な合理性を有すること
 - 時間的密接性があること
 - 他の原因によるものとする合理性がないこと
 等について、医学的見地等から慎重な検討が行われている。
- その上で、認定に当たっては「**厳密な医学的な因果関係までは必要とせず、接種後の症状が予防接種によって起こることを否定できない場合も対象とする**」という方針で審査が行われている。

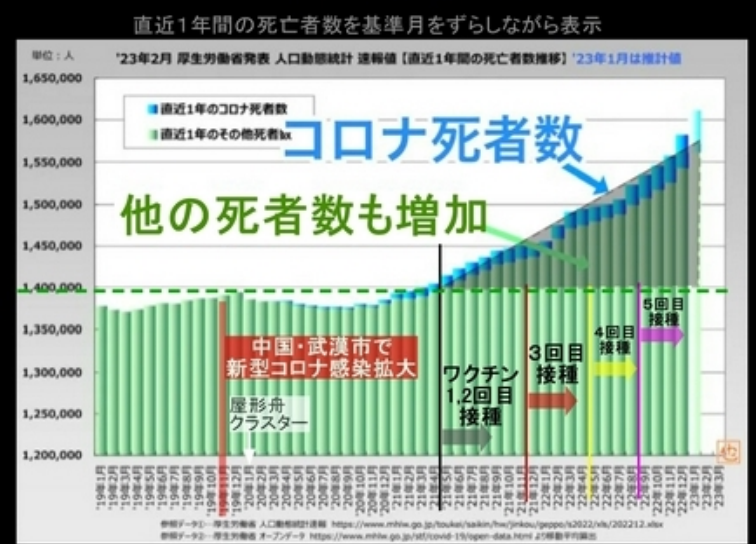
(参考)WHO: 予防接種と有害事象の因果関係評価に関するマニュアル

- ✓ **個別事例について、予防接種と予防接種後に生じた有害事象の因果関係を厳密に証明することは通常不可能である。**
- ✓ 多くの場合、予防接種を原因とすることが収集されたエビデンスと①整合的か、②不整合的か、③不確定かを、以下のような点を考慮しつつ判断することとされる。
 - ・ 予防接種と有害事象の時系列
 - ・ 疫学的なエビデンス
 - ・ 生物学的な妥当性
 - ・ 他の要因による説明可能性
 - ・ 予防接種と当該有害事象の関連性に関する事前のエビデンス

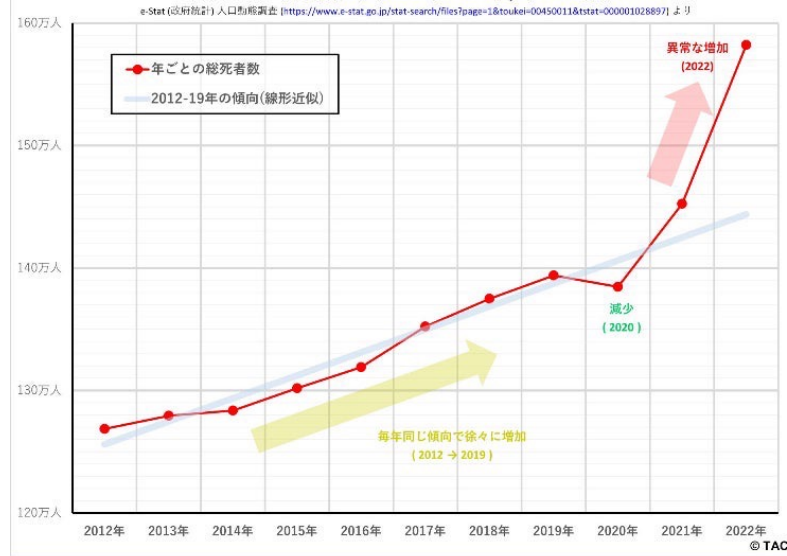
日本と世界のコロナ死者数の推移



ワクチン接種前より 接種後のほうが コロナ(陽性)死者数 & その他の死者数 両方とも増えた



日本全国の総死者数の推移 2012年～2022年 / 年ごとの推移





心臓の病気	心筋炎（複数）、心膜炎（複数）、完全房室ブロック、心筋梗塞、Brugada症候群、心房細動、致死性不整脈、冠動脈瘤、Valsalva洞動脈瘤、心タンポナーデ
腎臓の病気	肉眼的血尿（複数）、腎炎（複数）、 IgA腎症（多数） 、ネフローゼ症候群（複数） ループス腎炎（複数）、腎硬化症、多発血管炎、間質性腎炎（複数）
甲状腺の病気	亜急性甲状腺炎（複数）、甲状腺クリーゼ（複数）、 バセドウ病（多数） 、 破壊性甲状腺炎（複数）、慢性甲状腺炎
糖尿病	1型糖尿病発症（複数）、糖尿病性ケトアシドーシス（複数）
肝臓の病気	自己免疫性肝炎（複数）、急性B型肝炎、昏睡型急性肝不全、薬物性肝障害
皮膚の病気	帯状疱疹（多数） 、円形脱毛症増悪（複数）、皮膚筋炎（複数）、好中球性紅斑、 全身性膿疱性乾癬（複数）、遷延性掻痒性紅斑、膿疱性乾癬、扁平苔癬、扁平苔癬、 好酸球性蜂窩織炎、全身性強皮症、急性汎発性発疹性膿疱症
目の病気	ぶどう膜炎（複数）、視神経炎、硝子体出血、多発消失性白点症候群（複数）、 網膜分枝静脈閉塞症（複数）、網膜血管閉塞、網膜外層障害（複数）、ヘルペス角膜炎、 Valsalva網膜症、AMN、網膜血管炎、網膜色素上皮炎、眼球運動障害（複数）、 網脈絡膜循環障害（複数）、視神経症、多層性脈染炎、胸膜炎
血液の病気	発作性血色素尿症（複数）、血小板減少性紫斑病（複数）、血球貪食症候群（複数）、 後天性血友病、自己免疫性血液凝固異常症、血小板減少を伴う血栓症、 自己免疫性後天性凝固因子欠乏症、血小板減少、重症自己免疫性第XIII/13因子欠乏症、 重症溶血性貧血、メソトレキセート関連リンパ増殖性疾患、発作性寒冷ヘモグロビン尿症 von Willebrand症候群
血管の病気	血管炎（複数）、IgA血管炎（複数）、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（複数）、 ANCA関連疾患（多数） 、動脈中膜融解症、高安動脈炎、大動脈炎症候群 下肢広範深部静脈血栓症、血管炎による多臓器出血、解離性動脈瘤破裂、 静脈洞血栓症、硬膜動静脈瘻（複数）、皮膚血管炎、
神経の病気	顔面神経麻痺（複数）、ギラン・バレー症候群（複数）、脱髄性多発神経炎（複数）、 脊髄炎（複数）、痛覚変調性疼痛、一過性全健忘、周期性四肢麻痺、 悪性症候群、声帯機能障害、解離性神経症状 感音難聴、脱髄性ニューロパチー、感音難聴、脳炎、てんかん発作 前骨間神経麻痺、後骨間神経麻痺
全身の病気	サルコイドーシス（複数）、全身エリテマトーデス（複数）、多発性筋炎（複数）、 多臓器出血、アナフィラキシー、TAFRO症候群、小児多系統炎症性症候群、 IgG4関連疾患（複数）、成人発症Still病
脳の病気	下垂体炎（複数）、ACTH単独欠損症（複数）、帯状疱疹ウイルス脳炎（複数）、 くも膜下出血（複数）、脳梗塞（小児）、脳動脈瘤破裂、脳炎、脳出血、下垂体卒中、 中枢性尿崩症、脳梁病変、自己免疫脳炎・脳症、脳脊髄炎、下垂体機能低下症
肺の病気	胸膜炎、肺胞障害、肺塞栓症、呼吸窮迫症候群、肺胞出血、肺塞栓症、 血栓塞栓性肺高血圧症、間質性肺炎、重症気管支喘息の増悪
副腎の病気	副腎不全（複数）、副腎機能低下症（複数）、副腎クリーゼ
リンパ節 リンパ腫	反応性リンパ節腫大、TAFRO症候群、悪性リンパ腫
消化管の病気	潰瘍性大腸炎（複数）、重症腸炎
他	筋炎（複数） 、 リウマチ（多数） 、多発関節炎（複数）、多発筋痛症、壊死性ミオパチー、 RS3PE症候群、群発頭痛、横紋筋融解症、無月経、低Na決勝